

県内ロケ最多1606件

受け入れ拡充が課題



6月県議会は7日も一般

質問が行われ、自民党の松下浩明(山武市)、小高伸太(勝浦市・夷隅郡)、滝田敏幸(印西市)、民進党

の横堀喜一郎(茂原市)、公明党の塚定良治(市原市)の5議員が登壇した。森田健作知事は、県内での映画などのロケ撮影件数(県把握分)が昨年、過去最多の1606件になったと明らかにした。受け入れ態勢拡充の必要性も強調した。小

高議員の質問に答えた。

(他の答弁要旨2面)

県内では、ロケの受け皿組織の「県フィルムコミッション」(2002年度設立)や市町村ごとの同様組織を通じて撮影支援の取り組みが進められている。県によると、08年に42

8件だった撮影件数は年々増加。昨年は前年比91件増で、最多を更新した。

県は、千葉が舞台として強調された作品や宿泊などの経済効果を伴うロケを対象に、費用の助成制度(上限1千万円)を用意。開始した14年度は周知不足もあって2件(計25万円)の適用にとどまったが、15年度は大型作品を含む4件(計1300万円)に拡大した。県の集計では県内市町村の半数以上がロケ受け皿組織を未設置。森田知事は「支援の組織や人員が追い付かない課題も見えてきた」と述べた上で「道路使用許可、エキストラ手配など、きめ細やかな対応には地域が主体となることが重要」と指摘。全域での態勢いっぺりを働き掛けるとした。

県幹部の動静(8日)

▽知事、高橋・諸橋副知事、部長長 全員在庁。